

世界景気バロメーター

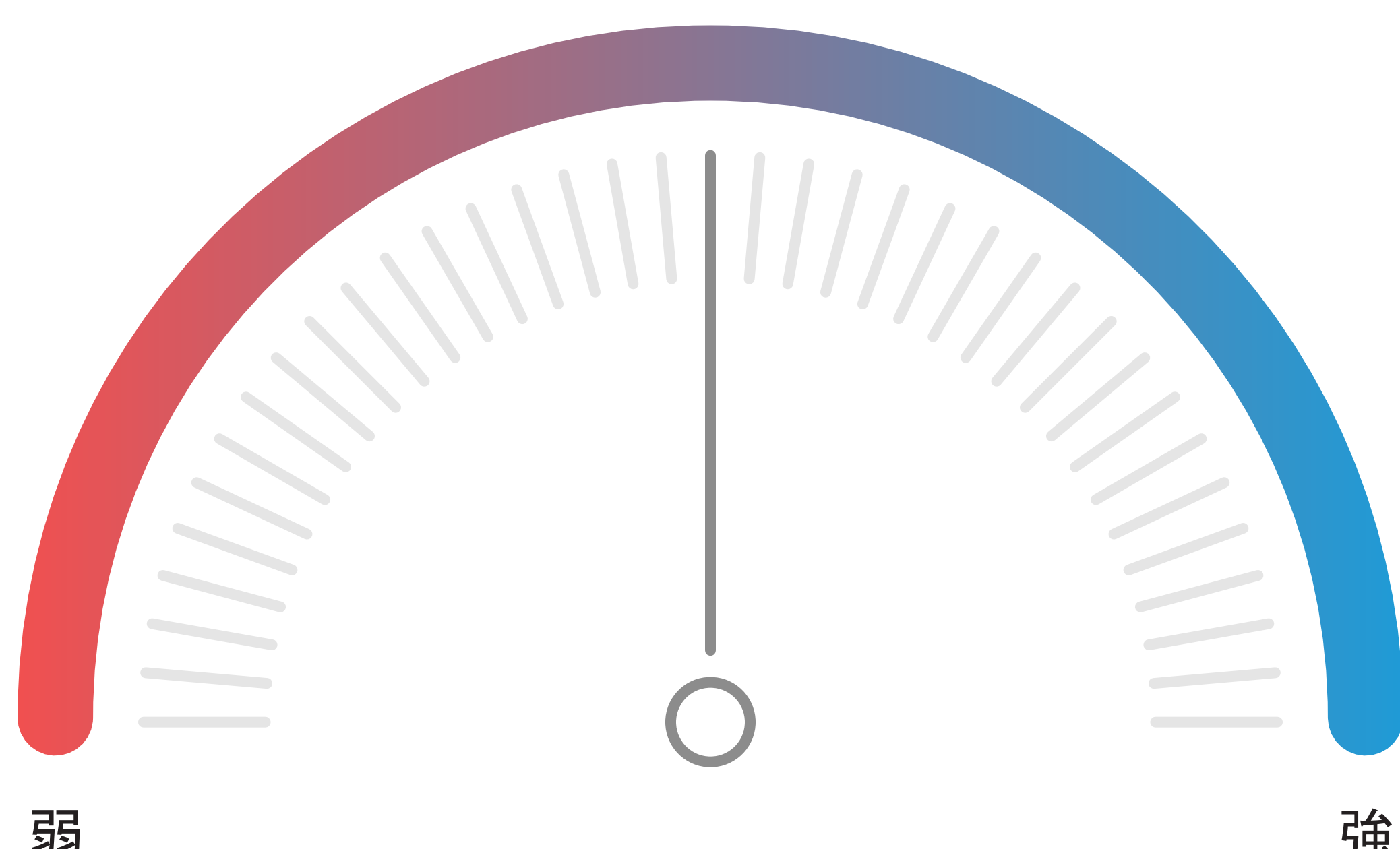
2017年11月

世界経済は2018年も引き続き健全な経済成長と安定的な物価動向が見込まれる。

イングランド銀行が金利を引き上げ、英国が先進国で3番目の利上げ国となった。インフレ率が急速に進行しないかぎり、先進国の主要中央銀行は超過流動性を緩やかに引き上げて行くと思われる。

こうした明るい経済見通しを背景に、リスク資産にとっては安定的な市場環境が続くと見られる。

経済成長



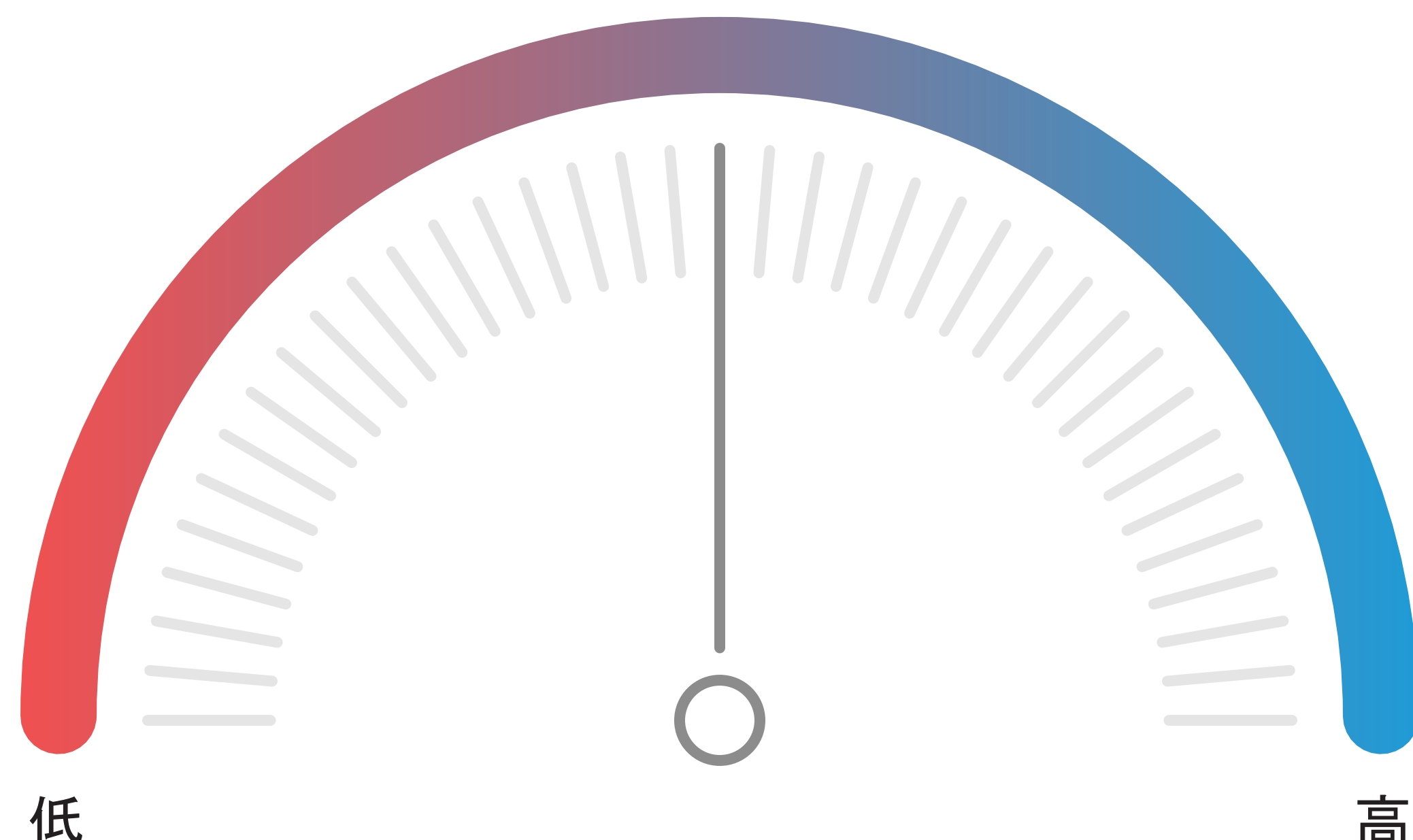
見通し

- + 世界経済は2018年も幅広い国・地域にわたり力強い成長を継続
- + 景気拡大のモメンタムは強く、成長率は上振れする可能性がある

リスク

- + 政治的な不透明性と保護主義の台頭
- + 財政による景気刺激策の行き過ぎ、または不足
- + 中国当局による、高成長よりも「成長の質」を重視する方針

インフレ率



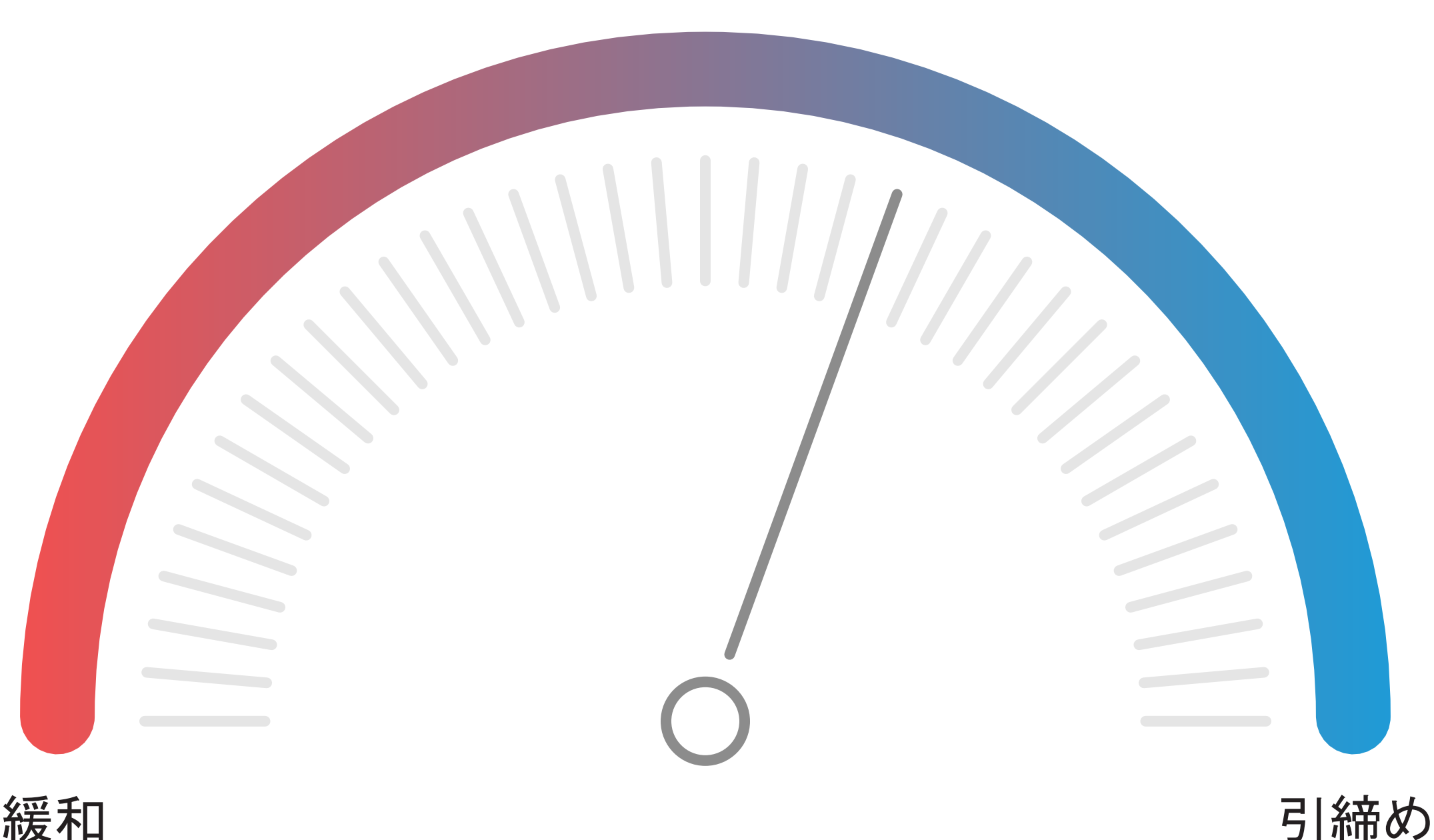
見通し

- + 構造要因や循環要因によるデスインフレ傾向は後退
- + インフレ圧力が急激に高まる可能性は低い

リスク

- + 労働市場の需給の不確実性
- + 失業率と賃金の関係を表すフィリップス曲線は今でも有効か？
- + 金融市場は双方向のリスクを十分織り込んでいるか？

金融政策



見通し

- + 米連邦準備制度理事会(FRB)は12月に金利を引き上げ、2018年前半にも2回引き上げる見通し
- + 欧州中央銀行(ECB)は、2018年後半に資産買入れを終了し、2019年前半に金利を引き上げる見通し
- + 日本銀行は当面「イールドカーブ・コントロール」政策を継続

リスク

- + 中央銀行の政策決定要因の変化
- + 予想以上の金融政策引締め
- + 中国人民銀行の政策における景気浮揚と投機抑制のバランス

出所: AB

本文中の見解はリサーチ、投資助言、売買推奨ではなく、必ずしもアライアンス・バーンスタイン(以下、「AB」)ポートフォリオ運用チームの見解とは限りません。本文中で言及した資産クラスの過去のパフォーマンスは将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、2017年11月15日現在の情報を基にアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが作成したものをアライアンス・バーンスタイン株式会社が翻訳した資料であり、いかなる場合も当資料に記載されている情報は、投資助言としてみなされません。
当資料は信用できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また当資料の記載内容、データ等は作成時点のものであり、今後予告なしに変更することがあります。アライアンス・バーンスタインおよびABはアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーンスタイン株式会社はABの日本拠点です。

アライアンス・バーンスタイン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号
【加入協会】一般社団法人投資信託協会／一般社団法人投資顧問業協会／日本証券業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会
<http://www.alliancebernstein.co.jp>

